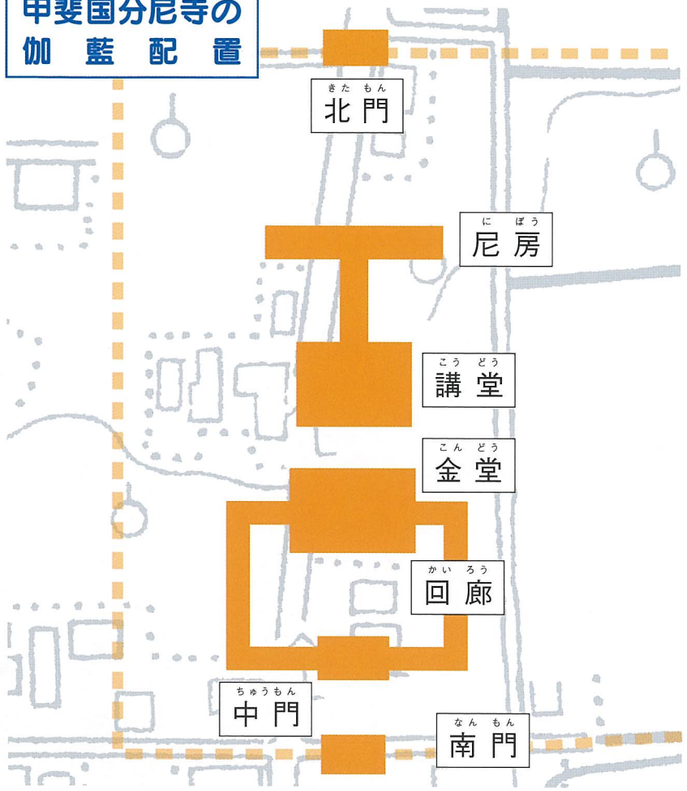
甲斐国分尼寺跡

10人の尼が仏像に祈りをささげた

甲斐国分尼寺の伽藍配置



国分尼寺の金堂（左）、講堂（右）の礎石

築地塀跡の調査

甲斐国分尼寺跡の北辺で確認された東西に走る築地塀の跡で、瓦片の出土数も多く、版築の土壁に瓦屋根をのせたものであることが確認された。

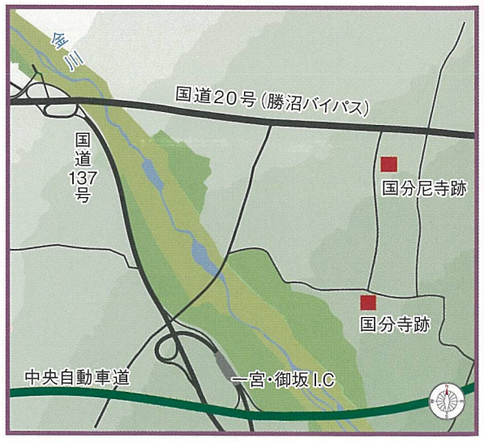
国分寺は男性の僧のための寺でしたが、「国分寺建立の詔」では女性のための尼寺も建てるよう指示されています。僧寺跡の北約500mのところに尼寺跡があり、南北に並ぶ金堂跡と講堂跡の礎石と基壇が残っています。

平成２年度に一宮町教育委員会が実施した範囲確認調査で、金堂跡中軸線から西約57m離れた地点で南北に走る溝が発見されました。また平成６年度には、講堂跡の北80m離れた地点で東西に走る築地塀の跡が発見されました。

墨書土器

甲斐国分尼寺跡の北側では集落遺跡が調査されており、国分寺を意味する「法寺」、国分尼寺を意味する「花寺」と墨書きされた土器が見つかっています。

国分寺跡・国分尼寺跡周辺散策地図



山梨県笛吹市教育委員会文化財課
〒406-0031 山梨県笛吹市石和町市部809-1　電話 055-261-3342

甲斐国千年の都

FUEFUKI CITY 笛吹市

国史跡

甲斐国分寺跡

大正11年指定

甲斐国分尼寺跡

昭和24年指定

６世紀中頃に朝鮮半島から伝わった仏教は
８世紀半ば、天皇の命により全国に造られた
国分寺を通して広がっていく

都（みやこ）の風を運んできた古代寺院

PHOTO　甲斐国分寺跡 伽藍地
手前右に七重塔の礎石が見える

甲斐国分寺跡

20人の僧が仏像を礼拝し、経を読み、天皇と国家の安泰を祈願した

甲斐国分寺の伽藍配置

聖武天皇が発した国分寺建立の詔（みことのり）により建設された国営寺院

講堂跡　僧が経典を学習したり、勤行する施設です。

蓮華文軒丸瓦（れんげもんのきまるがわら）

唐草文軒平瓦（からくさもんのきひらがわら）

鬼面文鬼瓦（きめんもんおにがわら）

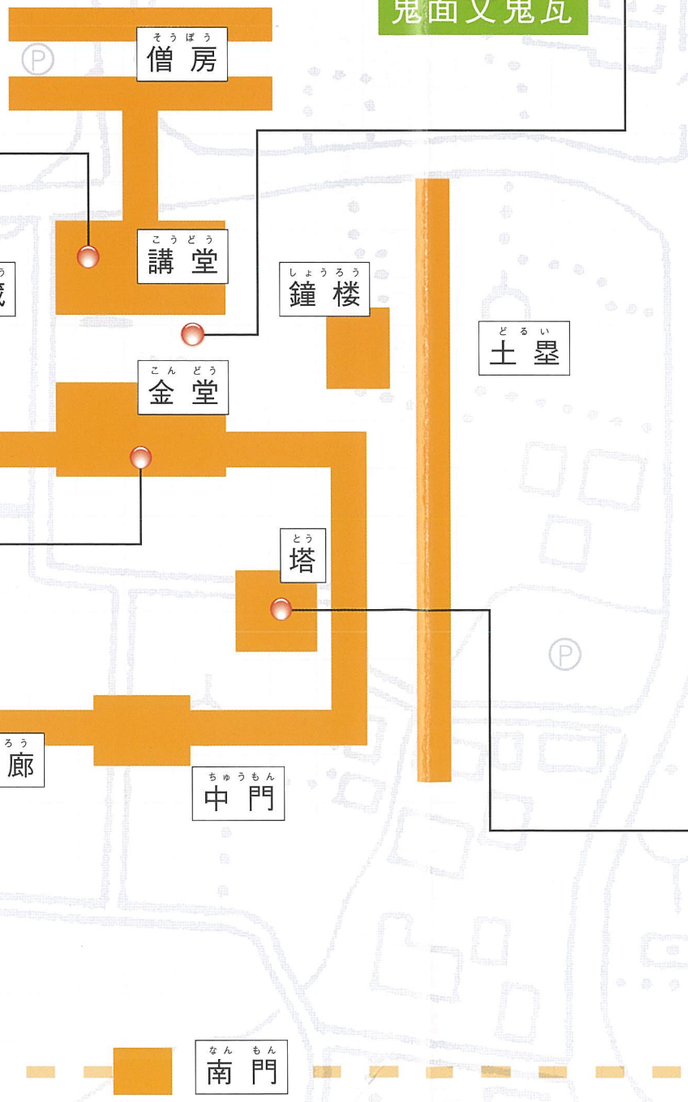
金堂跡で出土した軒先の瓦。蓮華や同心円の文様があります。

金堂跡　金堂の南側半分を調査し、建物の基礎が分かりました。

金堂北側の基礎。講堂との間に敷かれた多数の石も発見されました。

塔の最上屋に設置された相輪（そうりん）の根元に置かれた露盤（ろばん）です。石製で、重さ約2tあります。

塔の跡。中心に穴（舎利孔（しゃりこう））のある大きな心柱があります。



国分寺・国分尼寺跡の概要

立地

甲斐国分寺・国分尼寺は741年の聖武天皇が発した「国分寺建立の詔」により建設された国営寺院で、正式名称は金光明四天王護国寺、法華滅罪寺といいます。

甲斐国分寺跡は一宮町国分に、甲斐国分尼寺跡はその北部の同町東原に、約500m離れて位置しています。二寺とも御坂山地の谷間から北西へ流れる金川の右岸扇状地上にあり、西に甲府盆地中央部を望む緩傾斜地の上にあります。

南へ行くほど高度があがり、河口湖方面から官道東海道（御坂路）を下ってくると国分寺南門に達します。

史跡の指定と範囲

甲斐国分寺跡は平城京跡と同じ大正11年10月12日、甲斐国分尼寺跡は昭和24年7月 13日に国の史跡指定を受けました。

昭和59～62年に実施した国分寺跡の範囲確認調査では伽藍地を囲む溝が発見され、南北330m、東西255mあることが分かりました。南門も現指定範囲の約40m南に位置することが判明しています。

国分尼寺跡は指定当時は金堂跡、講堂跡のみを含めるもので、昭和62～63年に公有地化されました。平成元年度より範囲確認調査が行われ、築地塀に囲まれた範囲は約180m四方であることが分かりました。

平成13年1月29日には中門周りの土地を除きほぼ全域が追加指定されました。